

## 吾妻山新噴気形成と噴気活動

1. 新噴気孔形成に伴い、約 100m<sup>3</sup> の泥の流れ堆積物が放出された。
2. 新噴気は、低温熱水性の従来噴気とは異なり、高濃度の SO<sub>2</sub> を含み、1977 年噴火後の高温噴気ガス組成と似た特徴を持つ。従来噴気の温度・組成ともに顕著な変化はない。
3. 新噴気の SO<sub>2</sub> 放出量は 300t/d 程度 (11/26) で、顕著な火山ガス供給源を必要とする。

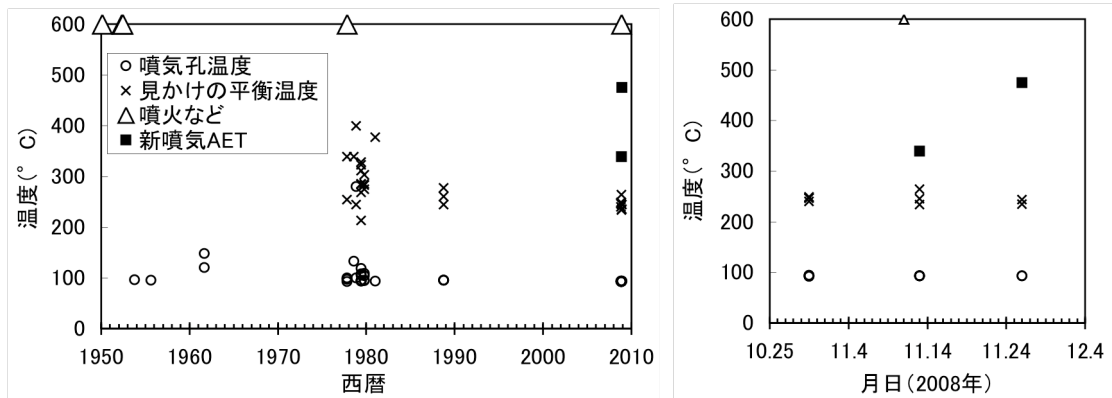


図 1 噴気温度と見かけの平衡温度 (AET:  $\text{SO}_2 + 3\text{H}_2 = \text{H}_2\text{S} + 2\text{H}_2\text{O}$ )

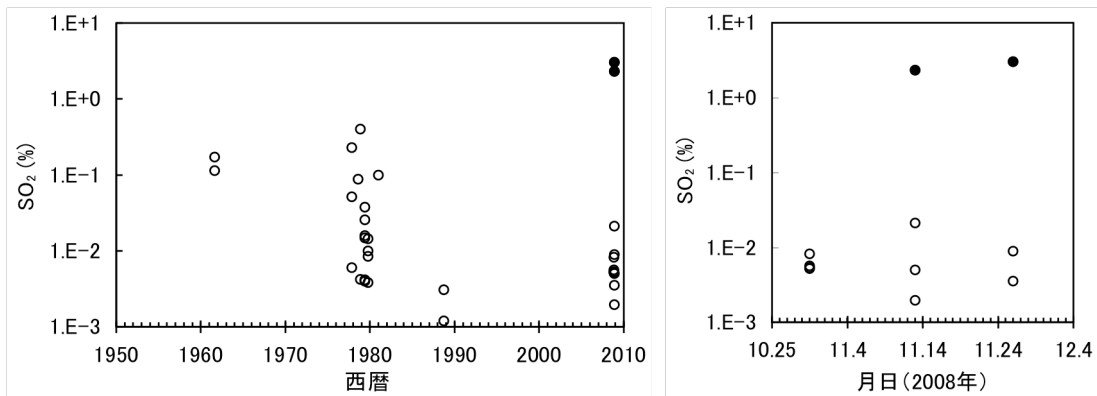


図 2 火山ガス中 SO<sub>2</sub> 濃度 (黒丸は新噴気)

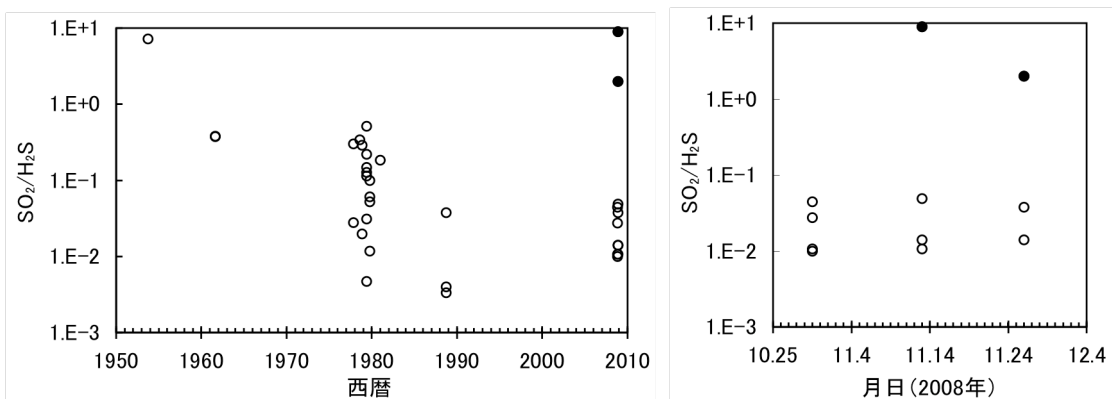


図 3 火山ガス中 SO<sub>2</sub>/H<sub>2</sub>S 比 (黒丸は新噴気)

2008 年以前の火山ガス組成は小沢他 (1981)、Kiyosu(1983)、平林 (未公表資料) による。  
吾妻山